

村田忠孝業師如東閣帳 ○二月より四月に至り以邪流に徒民は救米抄をとりぬ 俗にお七内と云ふ百五 ○三月八日より木下川業師如東閣帳 お七の小唄を名に取て

○月十日より根津社地小在石の上野尾天神閣帳 ○月十五日より月尾林天

馬奉寺閣帳靈室七拜せむ ○三月廿日笠間巨山卒 乃場橋の例に任せり小川殿

○四月初日より渋谷金五八幡宮閣帳 ○五月十八日富

本延壽之世死 中のの談 ○五月木の元才在といふ人焼捨を再興し今席と

設く 焼捨へちのさし紙を焼く再く焼捨自まわして考成りて画うが如く昔ありけり

○六月霖白七月ふより平野深川辺洪水 平野深川は又川に由る格の通成り

○七月十八日程多師唐衣橋海卒 七十六才林小島師助 ○七月廿二日画工董九如

卒 名流林八 ○八月十二日儒師高原子行卒 名流林八

○九月廿四日小石川念山権現急病者子町く出練物出 止り

○十一月十九日夜古時より牛込辺焼亡 ○十二月五日深夜分駒込出火夜時より

追焼 ○月十一日根津門前番屋町焼亡 ○賊のせし事成 写中一冊森山某

○三月四日暮六時迄大地震 ○三月より清屋五泉よりお七が聖蹟山妙純

○四月より六月に至り麻務流移人多く死也 ○五月廿日黄昏

西より東一筋の赤雲様なる ○五月廿八日より下谷橋為閣帳 ○同日

○二月儒師岳東海卒 百十九才 ○二月儒師岳東海卒 百十九才

○二月儒師岳東海卒 百十九才

○二月儒師岳東海卒 百十九才

○二月儒師岳東海卒 百十九才

○二月儒師岳東海卒 百十九才

○二月儒師岳東海卒 百十九才

淡草中梅園院より相馬大山麓移泉より善觀世寺開帳○六月朔日より
田向院より松末光昭より雷雷觀世寺開帳○同日より淡草傳法院より信州
善光寺如來開帳○月十日より卅日の間奉祈一目辨才天開帳

○六月十六日心學老中澤道二平七十九才保川後江
妙善寺中妻江○六月廿九日國學老文塚

嘉樹平格一平右衛門早登格七十五才
淡草本寺より不妻江○辨才永永左平八十三才名伴具孫才
吳岩寺中寺宮院不妻江

○七月高嵩漢信宣撰の圖を画く淡草觀音堂の外障不掲く

○七月朔日より淡草古中金藏院より相馬大圓寺觀音如來開帳

○同日より永代寺より常陸國河波大町神明開帳○七月より永代寺
より水戸磐船形より如信上人像開帳宝物多し○七月朔日より淡草

寺内正福院より越後頸城郡尾花社大國主像開帳宗長菴日の丸の
名号を掲せしむ

○八月折系樓の例不掲藏を建らふ○八月谷中延命院住持日蓮傳律

や能見巖科小巖せられしと云えし○十月朔日伊豆大島焼二日江戸中

原降○十二月挿花の師益翁秋乱を卒八十八才翌年七月門人淡草奥山一碑を立
子若人の文あり

○後の昔物流成写本裏
てんりのおろち西条後江のぬしとせ
送つる淡草之室曆に其の風俗せまらけ○今年二月中旬より

淡草園圃立花廣中下藩然寺大郎稻荷社利生何とありしは江戸

最近在の老若系清羣集はるる駭傳り羣集より名後江
朔日十廿廿日午の日開門型文化元年ふ

いり経警昌一奉納物山の如く道路より酒肆茶店を列して賑ひしが一三

年ありしは自然止むりその年の筆紙一枚繪小唄の幸ありあり文化元年抱し又
画今の時『繪せむらにひらりてん内大郎とてる處に多し

○群書類從板初六百三十六卷搦檢校輯板あり
此等より進小上本成

此年間の紀事

小金井村の梅寛政の以り縁の人をありし由古松軒が四林地名録に記

しりしが享和の以り證人善客多し集りし毎集遊觀の事とあり

武江三年表卷之七

武江三年表卷之七

武江三年表卷之七

武江三年表卷之七

乃其父の冊子一枚摺
多く刊行せり

三つ流るるこの糸糸うさく糸の雲れ中や水のひらきも 千巻

○せんちや 藤原公家今流る ○山東系傳曲馬琴が漢本多双帝乃れて自こ

救篇を捧行す又系大板より画入漢本新化ゆきと捧行して江戸下せり

は條江戸戯作若く式亭三馬六樹園版盛小枝の紋寺山翁又 感和亭東武

十返舎一九振筆專横濱樓馬馬高井紫山百樹 山東京山 若菜真長根

折方種彦梅暮里谷職神屋蓬舟南仙父楚滿人東里山人東西登

南北に外多系大板作若く 栗枝多思那合浦免月優々彼折流文廣未の編遠

合川派和松好藤津玄流前川孝秀速水真隆其味未折流あり書院未の画入り

仕組むる仍 江戸浮世繪師不葛飾北秋辰政 始春顔宗理群る多 後小秋戴斗又為一と改 秋川豊園

公豊廣蹄鞍小馬雷剛 葉画を 盈鞍北伝 関く樓小馬 小書 上白

菱岡北溪 ○北尾慧亦畧画式と号し浮世繪の畧画を不更せし粉色摺

の粉本教篇を捧行し ○浮世繪師二代鈴屋嘉信といひ其の長孫小島り

蘭画を學以後江戸不ぬり世より名を司馬江漢と改む又銅板を日本

小葉刺せるも此人の功之 ○江戸遠山水の遠系を画す一枚繪を ○享和以来東京傳の編る

近世奇祿考骨董集二部の隨筆世に於れしより此辨裁よりありし

戯作者各隨筆をたしむる事始まり捧れとも系傳の傳小並ふり終る

野鄙あるもの多し ○原舟月離人形の製を改て古今雜と名づけ世より

もくろ ○享和申あやねる人葉嶋といふ人寺島村小松園を設け四時

の花を載り遊賞の所とあり奥州の人ふりし 江戸より世に傳へ

天保の始終れり 葉嶋物或人名につけて洋書といひ文字をいへり改りといひり

此の奇小 ねも引るあもはるく多しより其ははるどおやえをあり 子巻

戦五十年表卷之六

一四

ふかき... 海

白

或人の説ふ此地の舊名を多... 白紙の後法泉あり

○此際手拭紙を多く出... 教田價次

質物の辨弁を製... 藤繪の紙昔

文相の如く... 五澤の系乃

顛童子を鬼... 京和中都樂

鏡と... 粉をの給

と... 見守る

中... 山谷町八百

料理仍る深川土橋平清下石龍泉寺町の駐妻... 文化年中より盛る

文化元年甲子 二月十九日改元

二月四日より信通院内福聚院大延天并梵号開帳○二月十七日昼に的次

西南より東北(白)雲出る○三月朔日より深川八幡宮開帳○四月五

日より側書并大天開帳○三月より護國寺親世寺開帳あり四月十三日

画人北条本堂の例ふ於て百二十尊の鏡紙(字)の遠慮を画く

○三月十五日より圓向院より同法友寺靈室開帳○小日向(大日)妙足

院大日如来開帳○三月十九日後友氏十代桂宗(五才)率(六才)○四月十五日

妻意編着の神開帳○同日より法華清水寺親世寺開帳○四月廿日

三日の乃十一代月中村勘三郎存あり妻狂言與乃(寛永元年より八十二年あり)

○六月朔日夕七時俄然大雨降霹靂大あり人々魂を飛ば(以時書記下あり七才の女児を空

中(卷上)望日死骸

○八月四日能人素健卒

二十七日所
去信あり

○八月廿二日画人高富

谷卒

七十五才名一雄号房務

○八月廿五日玄々一卒

字三才能修を好み一人之徳家
奇人徳の編あり谷中名院に葬

○浅草敷の内南部駒の市毎年所より一歳年より止む是より後の所願主

藩内(若次)○十一月廿二日画工佐服雪卒

名貫多称倉次号中岳堂法名
聖明中村名院に葬以女を英之

号とも画
とく

○今年徳園を熱之

文化二年乙丑 八月日

二月十五日より根津権現草北十一面観世音園帳○三月八日より谷中一

宗寺祖師園帳○同日より龜戸番取社境内より系於西鴨清涼山金

毘羅権現園帳○月十二日より回向院より青山若光寺如來園帳

○月廿二日より氷代寺より玉川明林園帳○月廿八日より龜戸東骨寺不動

寺園帳○二月芝神宮境内より勅進南力あり時月十六日日月真形

日水引といふ角力取給の若と喧嘩不及四車一人加勢しく大勢どわ子

あり園障ふるふ○三月中旬より若女芝居機あはく出花の女あり

芝居主を告北とて祝ふと云○四月朔日南宗川海雲寺千祈荒神

園帳○五月能師神田菴小知西園博群の物戸ふ能く八十八齡の賀逆を能く

仙ハ沈瀧朝霞の氣を吸く長壽一我ら

有 雪や吾菴ひのきと花 小知

○六月七月あり○六月十九日生妻村田の川巻橋ありし時人骨

出る事駭く是古戦場の存ありと云

の菩提なるれ枯骨を

浅草草龍寺(収め墓を築く)法形成松と云ふして七月より

系備群集行の事駭く

○八月廿七日儒師神谷東溪卒

○十月十七日書画院

定河津定通年

此の如き事不義以平世の人より其尾尾を
合客より一人あり賄録小録の條あり

○十一月深川三十三

間堂再建成功

翌年宮の二月
附始あり

○本曾法乃名所園會持行

秋里藤島妻
為村中和西

○十二月廿廿画人井川雪下園卒

名貞孫源三清坂中若老子不
葬以

文化三年丙寅

三月より永代より成田不動寺開帳○同月より護国寺の河内のみ

葛井寺

十一面
千手

親母寺開帳○三月三日江戸火西南より東北へ飛入

○三月四日登九ツ崎芝車町より火坤裂風より

火場田町の通三

田薩呂家以極浦本芝迎金校

傍上ちハ
巽隔斗

神明宮并門外田川町通り

左右出雲町竹川町通救急屋橋河内内外本橋町三十万坪本町系橋

より日本橋迄左右上下位より日本橋小の疎廣より常盤橋河内外宝町

本町通り西の縁倉町より三河町稚子町佐柄本町筋遠徳院連東へ極西

町新富物町新本町より西へ櫻町草屋町并芝居高座の跡より

富沢町橋町辺横山町馬喰町辺神田川を越へ為の佐久野町新永町

和泉橋以徳士町通り三味線極座徳寺前町通りより本町筋より裏通

近東へ浅草河内外より新橋通り元を越東本筋より徳徳寺の辺迄焼亡

此等小色され武家町家一字も跡を事あり翌六日の昼は時ふのり

て漸く終りし時大為階級焼九名武里半幡平均半半備度藩邸八十三号

と院六十名寺名有る神社二十餘ヶ所町救五百二十余町と時ゆり又

焼死溺死千二百餘人とりり於火ふりひくせん職民は救すんの小屋十五名ふ

建くあふい憇いりめ食物を捨る此余の貧民も米積せあり

此最途中
小双拍也

○四月十四日六日の月二夜三日回向院より火災焼死の被害供養の事を

令せらるる ○四月朔日儒師古屋昔陽卒 名昂林十二并七十三天

○辯秀堂何某弁才天を信し 金光明最勝王經を書写し清淨の地へ

納んてと上へ 念きき石を求ふそとて 龜の形一石を納り

堅三天 江の橋へ納り ○四月廿八日算術師小川秀藏算昌卒 中野盛

○七月大師の系弘法大師開帳 ○十一月琉球人來聘 石後 續谷山皇子

副使小祿親方 琉球人比嘉親雲上十二月二日終れり 本年関東を去り寒き烈しく雪

大田より 蕨送の時のこと 大田より蕨送の時のこと わらまふるは

○十一月十三日夜五時蕨送町 友九郎

○大坂新町 石谷

○大坂新町 石谷

○大坂新町 石谷

○大坂新町 石谷

二月四日
芒丁目
より出火
脇坂
新橋
この時
町火消
の大喧
嘩あり

○今年米穀豐饒 米穀の價が落る 十月市中分限小應下

○十一月十四日儒師崎元明卒 号終園林十太 十月の以より菅原新書

○十一月十四日儒師崎元明卒 号終園林十太 十月の以より菅原新書

○十一月十四日儒師崎元明卒 号終園林十太 十月の以より菅原新書

○十一月十四日儒師崎元明卒 号終園林十太 十月の以より菅原新書

文化四年丁卯

二月十四日明六生の東より 光物 春雨少く梨風の月を多く

○二月廿八日より 日向院 不動尊 開帳 廿二日

○二月廿八日より 日向院 不動尊 開帳 廿二日

○二月廿八日より 日向院 不動尊 開帳 廿二日

○二月廿八日より 日向院 不動尊 開帳 廿二日

○二月の頃より品川宿橋向南方 舊屋何某といふ驛舎の抱阪盛女今廿廿強 乃府中の者なりとあり衣類對又つゝ六尺七寸容色ちやうど一物ちやうどとて遊客多く此夜今廿廿強警固せり
後二年にて廢れり以己の妻也幸り長茂渡船に改め後若折橋若の向入女の方持と
 号一番物み如き甚盛を以て瀬福の灯を消一日本儀一筆を面以て文字や
 書ありしりる又あふ
 ○三月朔日より永代寺より相州鎌倉補陀落あきらふ勅あきらる大日
 如来文覺の像開帳同あきらる宮根山権現あきら開帳 ○三月九日越後若南仙笑
 楚満人卒楚ん先院 小葬儀 ○三月十日より大塚復國あきらる開帳 ○四月朔日より
 湯島社地より大塚大慈あきらる見耕菴火防造酒地あきらる開帳 ○四月より
 愛宕社地より都築郡折平村法島あきらる神開帳 ○四月朔日より淺草八軒
 寺町大仙あきらる下総中山法華寺あきらる興院あきらる神開帳と共ふ京都頂妙あきらる二天
 五開帳 ○高麗島國橋辺大川夕涼少 ○六月朔日二日大石あきらる金銭あきらるわじし
 ○六月廿日中平井村百姓あきらる文六あきらるの逆井村あきらるの川面あきらるの規あきらるを取あきらる

義の内小日蓮上人の像を好て平井妙光あきらる小飛あきらむ ○七月十九日より深
 川澤あきらる身あきらる身延山七面あきらる神開帳 ○五月朔日より猫あきらる事あきらる
 ○八月朔日より二十日のあきらる湯あきらる熱世あきらる茶あきらる今年法堂修後成る念のあま
 飯根持況開帳 ○永赤草波靜後ま
 志望 ○八月廿日より回向院あきらる下谷通あきらる町開通あきらる黄金親あきらる世あきらる茶あきらる
 若あきらる ○八月六日算術師あきらる飯田権平あきらる定資あきらる卒あきらる号旗山
 日谷西夜ふ葬儀
 ○八月十五日深川八幡宮あきらる系あきらる隔年小法一ける三十二年若より喧嘩あて休之り
 小今年冬一ふりあき出る産子の町と紫日記ふれ
 雨天あきらる十九日あきらる延あきらる同日産子の町あきらるより踊りあきらる遊物あきらる未あきらる出あきらる花あきらる中あきらるハ
 のあきらる及あきらる近あきらる在あきらるより見物あきらる出あきらるる是あきらるは時靈巖島あきらるの出あきらるわり物あきらる永代橋あきらるの
 東あきらる結あきらるをあきらる末あきらる時橋上あきらるの性あきらる末あきらる群あきらる集あきらるのあきらる以あきらる中あきらるより深川あきらるの方あきらるより
 なるは三あきらる石あきらる計あきらるをあきらる崩あきらるしあきらるり以あきらる末あきらる崩あきらるをあきらる後あきらるより末あきらるりものもいあきらるるもする
 事あきらるありしや上あきらる小あきらるよりて落あきらるる水あきらるにあきらる弱あきらるる助あきらるりし稀あきらるりし川あきらる下あきらるのあ

屠とありし九子五百人屠といふは尋常ならず江戸中(中)で居て見物小少なる
 家族の若ん大方あるは新大橋の通路止りて為國橋を渡り途(途)ひよ出る
 の昼夜引可切らば 官府より厚く命をくれ水中死骸を引揚し
 り男女老少を分けて大橋小橋並をを家族為子来りてあらく野邊
 送りてお涙愁傷のる目もあつたれぬ事ともありしとぞ 溺死の家族実ある
 中救の物ありし
この時類末夏の浮橋といふ
 夏紙小妻しく祀せりとあむ ○八月廿二日 九つ時近牛橋辺古松大枝折る
 ○八月水川明神本社造営より年々さる崩(崩)たり(此以西の方小常
 星ある) ○蝦夷地騷動あり ○一石橋の橋杭嫩木の榊(榊)ありて一面小芽を
 ろき稚多成生(成) ○九月三日酉の刻小東より南へ光り物落ふ大(大)輪(輪)
 むく青とあり ○九月十五日林田明神祭礼所産桑より河町二十日二十日
 より子供お撲せぬ ○九月廿一日青山慈野村現桑礼出(出)練物あり

○十月四日茶人川上白卒 九十三才号孤峯又田於始不羨と云子の
 如心母の門人中古千家茶の園基あり

各中安立ち少桑以墓不(不)天昭元年生(生)お管む不(不)中央小石塔墓をを大袋小坊法と稱
 是(是)左小戒号とありし方碑あり右小種楯大石の如きりの剣を推(推)り上小巨をとりてきたる
 右像を(像)左の
 板(板)やわ(わ)か(か)る

○十一月方福海上あり蘆(蘆)岸(岸)と云海(海)獣(獣)と云り

○十二月一日官儒此(此)野栗山卒 七十三才林秀輝号吉忠
 大塚は鹿島小葬以 ○月十六日儒師萩生鳳

鳴卒 名天祐称惠右衛門
 三田名村小葬以 ○十二月晦日夜永田馬場火事

文化五年戊辰 六月間

正月九日十日大雪降五十年來の雪といふ可(可)く折(折)れる ○月廿二日画人行次

養溪卒 名惟房侯家
 名發小葬以 ○二月朔日夜大雨大雷 ○二月十三日狩野善川院唯信

卒 六十八 ○三月十七日市谷新町光徳院親世善因信 又文化七年午の
 四月も開帳あり

○本所本佛古鬼子母神開帳 ○三月七日画人内田陶丘卒 玄對の男あり
 廣尾光林小葬以

○日暮里小後一位日野資枝の御所の碑を建 今年の西郷之常州水産江戸深川安宅の位人
 係延貞といふ人建あり

系あり日くりの里の死に後群集して佳象を賞りて或の翁よあそむるに
あれはねく嘆そく花の常とひくくふ日くりの里をわたりし

○四月九日御人松露庵有碑立 慈沢氏之塚 光徳院ふ葬 ○五月十日より浅草大仏より法金

妙隆寺祖師開帳 ○六月初旬より雨警く降り十六日より十八日迄江戸

及近國洪水溢る米穀價貴し ○六月貧民に法救米粥せり賜ふ

○閏六月朔日分日向院あり葛西半田稲荷開帳 ○閏六月二日御優尾

上杉録 四十 日向院より昔の御優小を小平次が幽魂を吊りて施徳懸

と修せむ人々群集する事ありて後彼を事を狂言小取組舟行

しける小見物とせしむる事ありて六崇ある事を忍れ其

后ハハるるさふを名を唱へて此殿言を僅なるあり ○壬六月十八日より

廿日迄大雨降再洪水溢る ○七月日向院あり野州那須野光時を玉藻

社開帳 ○七月廿一日夜小入雷少し鳴る六時より大雨を傾るが如

○七月廿五日昼九時より南大風雨家屋を損下怪象人多し皇初御船

七十餘艘覆り又酒船入降絶て市中酒あり ○八月日向院小於て昨年

永代橋水死の非孝一周忌法事修行 ○八月小いりても雨警く降り七日

八日大雨江戸法園洪水溢る ○九月二日加藤子七益大人卒 七年二月本日向院 小葬儀

○十月芝金杉山珠七面大明神再帳 ○十月四日この日浴湯をれば壽

を減トス即死するよりふて半銭入湯する事あり元文元年の故もかる

事ありしとぞ ○十月十一日書家細井錦減卒 名知権孫右清の孫あり 等より村法あり小葬儀

○十二月十九日書家藤田赤峰卒 名順孫卿右清の 藤田のりりふることいふ物 麻布園林も小葬儀

文化六年己巳

正月元日大風雪六時色左内所より吹雪して万町四日市小細所照降所